

平成 25 年度 事業報告書

I 概 要

「高岡市総合計画第2次基本計画」では、重点的な取組として「高岡新世紀創造プロジェクト」を掲げ、その取組む5つのテーマの一つ「歴史・文化」において、「生涯学習体制の充実と新たな文化創造」を掲げている。

これを踏まえ、当事業団では地域に根ざした芸術・文化活動の育成に向けて各種事業実施に取り組んだ。各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術文化の振興に貢献した。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

平成25年度は、第3次指定管理者期間(平成24年度～28年度)の2年目であり、従来の7施設に加えて、新たに高岡市二上まなび交流館の管理運営を行った。利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った水準の高いサービスを提供し、施設の利用促進を図った。

○ 文化振興事業の展開

市の文化振興施策の方向を踏まえ、質の高い舞台芸術の創造事業や市民の芸術文化への関心を高める事業、市民ニーズに応える事業などを展開している。

平成25年度は、万葉歴史館においては、高志の国文学館と連携した形で春の特別企画展「入江泰吉の万葉風景『よみがえる万葉のころ』」を開催し、秋の特別企画展では、「デザインされた万葉集—上野博之彩画展—」を開催した。

美術館においては、6月から7月に女性アーティスト展「私たちは越えていく」を開催した。夏期には、「ドラえもんの科学みらい展」を開催し、開館以来最高となる78,068人の観覧者を迎えた。9月から10月には、「画家 岸田劉生の軌跡—油彩画、装丁画、水彩画などを中心に—」展を開催した。

博物館においては、7月末から10月に特別展「たかおか町絵図探訪！」を開催した。

高岡市民会館では、富山出身の俳優・西村雅彦氏の語りによる「ベートーヴェンと三人の女たち」や、世界初演となる委嘱新作オペラ「滝の白糸」公演、子ども達を対象に身体表現の面白さや個々の表現活動をより豊かなものにしようというプロジェクト「キッズ・パフォーマンス TAKAOKA～SHINKA～Debut」を開催した。

カメラ館では、春の「柳木昭信写真展」、夏の「復興支援チャリティ写真展 6人の写真家たち」、秋の「水中写真家・鍵井靖章写真展」の企画写真展3本と、企画事業—カメラと写真+α—の「蜷川実花 [noir]」写真展を開催した。この蜷川実花写真展でのトークショーでは、会場を福岡小学校に移し600人の来場者を迎えた。

II 各施設の事業内容

1 文化振興事業

事務局では、「第43回高岡市芸術祭」（期間：11月2日から10日まで）を高岡市芸術文化団体協議会（邦楽、洋楽、華道、茶道）及び高岡市美術作家連盟との協働により開催した。

2 万葉歴史館事業

企画展は、前年度に引き続き「越中国と万葉集」を実施している。

春の特別企画展は、高志の国文学館と連携した形で「入江泰吉の万葉風景『よみがえる万葉のこころ』」を開催した。秋の特別企画展は「デザインされた万葉集—上野博之彩画展—」と題し、国内外で活躍するグラフィックデザイナー上野博之氏の作品を紹介した。

学習講座は、「万葉集をよむ」・「『日めくり万葉集』をよむ」・「大伴家持とともに」・「古代への招待」・「はじめての万葉集」を継続開催した。平成25年度は、従前から実施している「越中万葉故地めぐり」のほかに、新たに「越中万葉ウォーク」を開講することで臨地研修型の学習講座を充実させ、これにより、従前とは異なる新たな来館者を獲得することができた。また、富山大学で館長や研究員が万葉に関する講義を行い、また学校移動展示「越中万葉パビリオン」や越中万葉移動展示等を継続することで、より越中万葉に親しんでもらうことができた。

出版事業では、万葉歴史館の研究成果を紹介する「高岡市万葉歴史館紀要」第24号、同叢書26「歌の道—家持へ、家持から—」を出版した。また、高岡市万葉歴史館論集については、24年度から、より一般読者向けのを別冊として出版しており、平成25年度は「越中万葉かるた」100首についての解説本『越中万葉を楽しむ』を出版した。

来館者に対しては、わかりやすく万葉の世界を伝え館内を案内するための説明員「和草^{にこぐさ}」とともに、研究員自らも、学校からの団体客を中心に、万葉衣装を身につけての案内を実施しており、さらなる来館者増加を目指している。

3 美術館事業

美術館では、郷土の美術・工芸の研究成果を収集・保存・展示に生かし、美術館活動の普及のために広範な教育活動を行っている。

平成25年度は、6月から7月に女性アーティスト展「私たちは越えていく」を開催。オープニング記念対談や上映会を行い、また学芸員によるギャラリートークを実施して鑑賞の一助となる工夫をこらした。

7月から9月には、「ドラえもんの科学みらい展」を開催した。北日本放送との連携により活発な広報活動を展開し、講演会や科学実験ワークショップなどの教育普及活動により、入場者は78,068人（開館以来第1位）を記録した。

9月から10月には、「画家 岸田劉生の軌跡—油彩画、装丁画、水彩画などを中心に—」展を開催し、独創的な芸術的境地を開いたことで日本近代洋画史に大きな

足跡をのこした画家・岸田劉生の幅広い画業と、大正期に高岡で洋画家の草分けとして活躍した雄山通季氏ゆかりの劉生作品と書簡を展示した。

恒例の展覧会として開催している「高岡市民美術展」についても、シニアから現役高校生まで、幅広い層の市民から約400点の出品を受け、それぞれの日々の研鑽の成果を発表する場として好評を得た。

コレクション展においては、テーマに沿って展示替えを行い、「ものづくり・デザイン科」に学ぶ児童・生徒たちへの教育普及、郷土美術工芸史の上で欠かせない作家の紹介などを行った。

開館20周年記念に向けた準備としては、「メタルズ！」展の開催に向けての調査・研究、関係者との協議や資料整備等を行った。

4 博物館事業

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・産業の分かりやすい紹介に努め、団体見学への展示解説等を行った。

展示事業としては、館蔵品展「未来へつなぐ高岡のお宝—新収蔵品を中心に—」(4月～5月／2月～3月)を開催し、近年の収蔵資料や、日ごろ公開の機会が少ない資料を紹介した。

企画展「むかしの人はどんな道具を使っていたの？」(6月～10月)では、当館が収蔵する民俗資料を展示・紹介した。

また、特別展「たかおか町絵図探訪！」では、近世から現代にわたる高岡の各種の町絵図を展示・紹介した(7月～10月)。また外部講師による講演会も行った。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座「いま光り輝く 前田利長のすべて」(全5回)や古文書講座「初めての古文書教室」(全4回)、館職員によるショートレクチャー「土曜おもしろ講座・高岡のみじかい話」(全11回)を開催した。

また、呈茶の会「松聲庵 一博物館で抹茶を楽しみませんか—」(2回)、桜の時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」、児童生徒を対象としたワークショップ「切り紙で千石船をつくろう!」、「たかおか歴史探検隊! きみも1日学芸員になってみよう」を開催した。その他、講師・委員の派遣協力も行った(計12件)。

調査研究活動では、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、445件の資料情報をネット公開した。

また平成25年度より、国の緊急雇用創出事業の補助金を活用して「佐渡家資料調査事業」を進めており、高岡町医「佐渡家」に伝わる資料3,500点余(古文書・書画・什器)の概要調査並びに目録原稿の作成を進めている。

5 市民会館事業

4月に開催した「ラ・フォル・ジュルネ金沢2013『熱狂の日』音楽祭 in 高岡」は、「パリ、至福の時」をテーマに市内各所で3度のコンサートを行った。

5月は、「ベートーヴェンと三人の女たち」と題し、富山出身の俳優・西村雅彦とオーケストラ・アンサンブル金沢弦楽四重奏による、トークを交えたプログラムで好評を得た。

1月には、世界初演となる委嘱新作オペラ「滝の白糸」を上演。千住明氏ら豪華制作陣をはじめ中嶋彰子氏、森雅史氏（高岡市出身）ら世界的に活躍するオペラ歌手が集結し、1,000人の入場者を得て新たなオペラの可能性を感じさせる舞台となった。

子どもを対象とした事業では、6月に市内小学校4年生1,445名を対象とした「10才のファーストコンサート」を、10月には市内小学校6年生1,508人を対象とした劇団四季「こころの劇場」を開催した。3月にはダンサーの近藤良平氏（コンドルズ）を演出・構成に迎え、「キッズ・パフォーマンス TAKAOKA～SHINKA～Debut」の舞台公演を行った。子ども達が約20回のワークショップを経てパフォーマンス作品を披露するなど、多くの観客が多彩なダンス・パフォーマンスを楽しんだ。なお、この「キッズ・パフォーマンス」は2カ年継続事業であり、平成26年10月に本公演を予定している。

「ホール活性化特別事業」では、7月に「Kalafina（カラフィナ）公演」、9月に「北陸道珍道中 松竹落語会」、10月に「ディズニー・オン・クラシック～まほうの夜の音楽会2014」、11月に「コンドルズ日本縦断超時空ツアー2013 TIME IS MY SIDE」、12月に「アニソンヒットパレード in 高岡」と、大規模公演を誘致し、新しい来館者層の開拓やホールのイメージアップ、稼働率の向上を図った。

「ホール活性化事業」では、市民会館ホールサポーターの会「パープル」が主体となり、サロンコンサートを実施（25年度全9回）し、25年度末で158回を数えている。なお、特別公演として、3月に北陸新幹線開業1年前記念コンサートを実施し、駅前の賑わい創出に貢献している。

なお、市民会館ホールにおける公益目的事業の利用は、会館自主事業、サロンコンサート等で49回、入場者数11,100人であった。また、一般へのホール貸与（収益目的事業等）は、吹奏楽の演奏会等で107回、入場者数52,512人であった。

6 青年の家事業

心身ともに健全な青年の育成を図るため、生涯学習の一環として、「青年文化教室」・「現代教養講座」・「若者交流支援事業」を実施した。

「青年文化教室」では、華道、茶道、着付け、ボールペン習字、ビューティエクササイズの9教室を実施した。「現代教養講座」では、初心者を対象に韓国語と中国語の教室を、外国人講師を迎えて開講した。「若者交流支援事業」では、要望の多いゴルフ教室を開催し若者の交流を図った。

なお、青年の家における公益目的事業の利用は、文化教室で106回、利用人数790人であった。能楽堂等の諸室の一般への貸与（収益目的事業）は、2,234回、利用人数23,326人であった。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

企画写真展示事業では、「地球・共生」を共通テーマに、第一線で活躍する写真家による写真展3本を季節に合わせて開催した。

春の写真展では、柳木昭信氏（富山県出身）の「世界各地の大自然」をテーマとし

た作品を展示し、自然や写真への関心を深めた。夏の写真展では、自然や生命をテーマとした作品が高く評価されている6人の写真家(岡嶋和幸氏、菊池哲男氏、清水哲朗氏、秦達夫氏、福田健太郎氏、前川貴行氏)の作品を、「復興支援チャリティー写真展」として同時に展示した。同展開催に伴い寄せられた東日本大震災義援金359,082円は、日本赤十字社を通じて被災地に贈られた。秋の写真展では、水中写真家・鍵井靖章氏が世界各地の海や震災後の東北、富山湾を撮影した作品を展示した。各展示会で、展示写真家によるギャラリートークを実施することで、より多くの来場者の獲得に努めた。

企画事業「カメラと写真+α」では、写真家・映画監督の蜷川実花氏の写真展を開催した。本展は、幅広い年代の来館者から注目され、同時に開催したトークショーは、多数の応募があり、急遽会場変更を行うなど市内外からの反響が多く寄せられた。写真家と作品に親しむ企画として好評を得た。

カメラ常設展示では、カメラのスタイルの変遷を、機能やデザインの視点を含めて「カメラとスタイルⅠ」・「カメラとスタイルⅡ」と2期にわけて紹介し、クラシックカメラの魅力を伝えた。

教育普及事業では、「ワンダーフォトコンテスト」や写真教室の開催等で、写真とカメラに親しむ機会を提供し、写真文化の充実に努めた。

開館以来カメラ館は、カメラと写真の魅力を伝える“ふくおかのミュージアム”として、全国の写真ファンや写真関係者等から広く親しまれている。

8 動物園事業

動物の飼育展示のほか、「ふれあい広場」、動物園まつり、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

「ふれあい広場」は、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができるもので、来園者から好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもちろんのこと、情操教育の場として動物愛護の啓発や情報発信、種の保存に努めた。

9 二上まなび交流館事業

主催事業としては、二上山の自然に触れる「二上山を楽しもう」を春、秋、冬に実施したほか、野外料理を満喫する「野外料理を楽しもう」や、小学3年生を対象とした「Let's Stay 二上」など、多様な事業を行った。

県委託事業として異年齢生活体験推進事業「夏合宿(小学4～6年生対象)」「なかよし合宿(小学1～3年生対象)」を実施し、異年齢児童による共同宿泊体験事業を行った。

通年のクラブ活動事業として「まなびっこクラブ」を開講し、ペン習字、茶道、箏、科学工作、パソコン、卓球の6クラブを実施した。技能の向上と共にクラブ員同士の友情を深めた。

「高岡市児童アイデア工作展・高岡市未来の科学の夢絵画展」を9月にウイング・ウイング高岡1階交流スペースで開催した。応募作品はそれぞれ215点と155

点で、優秀作 35 点と 20 点を、「富山県発明とくふう展・富山県未来の科学の夢絵画展」に出品した。

10 月には、当館に事務局を有する外部団体（高岡市児童クラブ連合会、ボーイスカウト高岡地区協議会、ガールスカウト高岡地区協議会）と共同で「まなびっこフェスティバル」を開催し、700 名を超える来場者があった。

この他、宿泊学習や親子活動などの学校教育団体、クラブ合宿やボーイスカウト、ガールスカウト活動などの社会教育団体、職員研修などの企業団体等、多くの方々に様々な体験活動の場を提供した。

なお、まなび交流館における公益目的事業の利用は、主催事業や小・中学校宿泊学習、スポーツ少年団活動など 278 回で、利用人数は 14,647 人であった。一方、収益目的事業の利用は、研修室等の一般への貸与など 79 回で、利用人数は 2,752 人であった。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

- (1) 第3回評議員会 平成25年5月31日開催
報告第1号 平成24年度事業報告について 承認
議案第1号 平成24年度決算の承認について 可決
- (2) 第4回評議員会 平成25年6月11日開催（書面によるみなし決議）
議案第2号 監事の選任について 可決

Ⅳ 理事会に関する事項

1 審議内容

- (1) 第6回理事会 平成25年5月15日開催
議案第1号 平成24年度事業報告の承認について 可決
議案第2号 平成24年度決算の承認について 可決
議案第3号 第3回評議員会の招集について 可決
- (2) 第7回理事会 平成25年6月7日開催（書面によるみなし決議）
議案第4号 第4回評議員会への議案提出について 可決
- (3) 第8回理事会 平成25年7月19日開催（書面によるみなし決議）
議案第5号 平成25年度補正予算（第1号）の承認について 可決
- (4) 第9回理事会 平成25年10月25日開催
報告第1号 平成25年度上半期に係る事業の執行状況について 承認
議案第6号 平成25年度補正予算（第2号）の承認について 可決
- (5) 第10回理事会 平成25年12月18日開催
議案第7号 平成25年度補正予算（第3号）の承認について 可決
- (6) 第11回理事会 平成26年3月26日開催
議案第8号 平成25年度補正予算（第4号）の承認について 可決
議案第9号 平成26年度事業計画の承認について 可決
議案第10号 平成26年度予算の承認について 可決

2 理事及び監事の異動状況

- (1) 平成25年4月1日 専務理事 榊原 仁麿 就任
(2) 平成25年5月31日 監事 廣嶋 律子 辞任
(3) 平成25年7月1日 監事 小竹 秀子 就任